

Proximal Anastomotic New Entry Tear (PANE) Following Surgical Repair of Acute Type A Aortic Dissection: Anatomical Location, Risk Factors, and Impact on Long-term Outcomes

(急性大動脈解離手術後の中枢側吻合部新規エントリー (PANE) : 発生位置、リスク因子および遠隔成績への影響)

◆研究の目的と概要◆

急性大動脈解離患者さんの血管は非常に脆弱であり、吻合部に新規にできる anastomotic new entry tear は遠隔期の瘤化などの問題が生じることがあります。しかし中枢側にできる proximal anastomotic new entry tear (PANE) に関する検討はほとんどされていません。本研究では遠隔期の中枢再手術率の改善を目指し、PANE の発生位置、頻度、リスク因子の同定および遠隔期への影響を明らかにし、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2003 年 1 月から 2023 年 12 月までの間に、当院で急性大動脈解離に対して人工血管置換術を施行された方。

◆研究に使用される情報・試料◆

性別、手術時年齢、身長、体重、BMI、体表面積、喫煙歴などの既往歴、急性大動脈解離発症までの経過、手術内容（手術時間、使用した人工血管の種類、術式）、術後 CT データ、術後イベント、退院時の転帰、退院後の経過（外来での検査結果、中枢側大動脈再手術日）、遠隔転帰生死の有無、死因）

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 6 月 3 日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご承知いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

心臓血管外科 研究責任者 山下 剛生

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明